kosei
生かされ、生きるチカラ。

二人の母に感謝できる幸せ。

新津教会　坂井悠乃さん

坂井悠乃さんには母親が二人いる。育ての親に何不自由なく育てられ、21歳で結婚。2人の子宝に恵まれ、現在は夫と両親とともに暮らしている。生みの母からは何度か連絡があった。本心では会って、産んでくれたことの感謝を伝えたい。でも、現在の家族の気持ちを考え、湧き上がる思いに蓋をした。そんなとき、親身に相談にのってくれていた人の「素直な気持ちをいえずに苦しんでない?」という言葉に背中を押され、家族に本当の思いを伝えた。ついに、生みの母と会う機会が訪れると家族は快く送り出してくれた。それは、笑顔と涙があふれる温かな対面で「産んでくれたことの感謝」も伝えることができた。その帰り道、子どもの頃に育ての母からいわれた「お母さんが二人もいて幸せね」という言葉を思い出した。自分の境遇を悲観したことはない。それは、坂井家の両親がたくさんの愛情を注いでくれ、生みの母が忘れずにいてくれたからだ。悠乃さんはいま、二人の母に心から感謝できる幸せを感じている。

親孝行と菩薩行

「孝行のしたい時分に親はなし」のことわざが示すように、亡くなって初めて親の恩の大きさを痛感し、生前の親不孝を悔やむ人が少なくないようです。ただ、親孝行をするのに、けっして手遅れということはないと思うのです。暮らしの一つ一つに、ていねいにとりくむ。日々を明るく、楽しく過ごす。人に喜ばれるようなことを誠実に行なう。娘や息子がこのように生きていれば、いまは亡き両親も、安心してくれるのではないでしょうか。元気に暮らす両親にとっても、当然のことながら、わが子が誠実に生きて、まわりの人に喜ばれることは何よりもうれしいはずです。

一方の菩薩行（ぼさつぎょう）とは、仏さまの教えに随（しんが）って、人を思いやり、周囲の人に喜ばれるような行ないのことですが、親孝行の具体像を菩薩行に重ねると、どちらも根本においては一つということがわかります。そして、共通するのは、いま命あることへの「感謝」です。

「孝は百行（ひゃっこう）の本（もと）」という言葉があります。「孝行はすべての善行の根本となる」という意味ですが、その孝行も生んでいただいた両親への感謝が基本ですから、命への感謝がすべての善行の土台となり、それが善なる世界を創造する力になると教える言葉なのかもしれません。

立正佼成会
www.kosei-kai.or.jp Eメール：info@kosei-kai.or.jp　〒166-8537 東京都杉並区和田2丁目11番1号　TEL.03-5341-1615